

## 「奈良観光統計ウイーク」

2014年11月17日～11月21日に国際フォーラム「奈良観光統計ウイーク」が開催されました。前半の11月17日～18日は、日本の経済協力開発機構(OECD)加盟50周年事業の一環として、「第13回観光統計グローバルフォーラム」をアジアで初めて開催し、①地域観光の計測と経済分析 ②需要サイド行動と消費の分析 ③ビッグデータを活用した観光統計 ④ビジネス・政策分析のための観光統計の活用の4つのテーマについて話し合われました。後半の19日～21日は、世界観光機関 (UNWTO)、観光庁、奈良県主催「UNWTO 観光統計スペシャルワークショップ」を開催し、①政策支援のための観光計測 ②持続可能な観光発展の計測におけるフレームワークを目指して ③旅行観光サテライト勘定実施に必要な制度と技術、をテーマとし、世界から統計学者、官庁統計担当者、研究者、観光関係者等が集まり、観光統計に関する現状・課題について集中的な議論を行い、各フォーラムには40の国・地域から約200名の代表が参加し、観光統計の経済及び雇用に対する貢献度がアピールされました。



(写真) 左「第13回観光統計グローバルフォーラム」 右 「UNWTO 観光統計スペシャルワークショップ」

同「奈良観光統計ウイーク」において APTEC は会議を支援すると共に、参加者に関西の魅力を発信するため、コーヒースタンドでは、「堺市のけし餅や和歌山県の有田みかん」など関西の食物を味わって頂きました。また、関西の各自治体様からお預かりした観光パンフレット及びポスターを設置し、それぞれの地域の魅力をアピールしたところ、参加者の中にはそれらが大変気に入られお土産に持って帰国された方もありました。



(写真) コーヒーブレイクの様子

また12月19日及び22日はテクニカルツアーがプログラムに組み込まれており、APTECは賛助会員の自治体様と連携し各日日帰りツアーを企画しました。両ツアーとも大変人気で、19日の参加者は高野山を訪れ宿坊の精進料理を体験したり、堺では刃物工場見学や、堺伝統産業会館の見学の後名産の刃物等のお土産を楽しみました。また22日には「みなと神戸と世界遺産宇治・平等院」ツアーを実施し、神戸街歩きや食及びでのグルメや、宇治での茶道体験等地域の魅力を体験しました。



(写真) 右「世界遺産高野山と刃物のまち堺」ツアー 左「みなと神戸と世界遺産宇治・平等院」ツアー

また12月20日には奈良ホテルでUNWTOアジア太平洋センターがランチレセプションを開催、APTEC 浅沼唯明理事長（RSOAP 代表）が奈良時代にシルクロードを通して伝えられた五弦琵琶について説明し、交流を通じた相互理解や将来の国際観光及び世界平和についてスピーチしました。



今回の開催により、アジア太平洋地域から多くの参加者が奈良に集まり、観光統計に様々なパートナーシップが生まれました。これらの取組みが今後も継続するよう、当センターは UNWTO 唯一の地域事務所として、今後とも UNWTO 本部と連携し UNWTO アジア太平洋加盟国におけるキャパシティービルディングを促進して参ります。